

第7回 CIEC サタデーカフェ

開催概要

開催日:2021年11月20日(土)20:00~21:00

会場:Zoomによるオンライン開催

プログラム

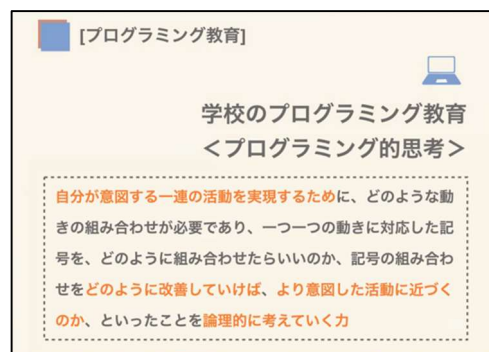
20:00 - 20:15 【 話題提供 】

スピーカー:慶徳大介氏 (3rdschool)

テーマ: プログラミング教育における、はじめの一步

～子どもたちの現在と未来を考えた教師の可能性～

20:15 - 21:00 【 フロアとのフリーディスカッション 】



第7回 CIEC サタデーカフェは「プログラミング教育における、はじめの一步～子どもたちの現在と未来を考えた教師の可能性～」をテーマにプログラミング教室「3rd school」を運営されている慶徳大介氏による話題提供となりました。もとは小学校教員をされていた慶徳氏ですが、現在は行政との連携授業等で学校現場(特に小学校)と関わっておられます。話題は、プログラミング教育について現場の先生が抱えている印象から始まり、世界における環境の目まぐるしい変化や、様々なビジネスが広がってきているこの世の中を考えると、いまこそプログラミング教育が必要なのではないかという提起でした。これから訪れる未来には、自ら考える力や新しい価値を生み出す力を持ち、いつも学び続け、変化し続けられる人が必要であり、そのためにもプログラミング的思考を持った人材の育成が不可欠であるとおっしゃられました。さらに、これからの教師像として求められる素養としては、「適切にコーチングできる人」、「最先端を探りいつも変化できる人」、また「とにかく人格者であること」などを挙げ、今後のプログラミング教育や教師のあり方について多くの視点から話題提供をいただきました。

その後のフロアとのディスカッションでは、これらの話題提供をもとに様々な視点から話がされました。いくつか紹介すると、「現場の先生方の中には、プログラミング教育は難しいと感じている方が多いように思う。」というコメントに対しては、「先生方は子どもたちに教えないといけないという思いが強すぎるのではないかな。子どもたちと一緒に考えてみようという気持ちをもっと気軽に持ってほしい。」と答えられていました。「これからは、存在しない答えに対して、どのように向き合っていくかが問われている時代であり、教えることを中心に据えている教員は大変である。」というコメントもありました。またプログラミング教育に関わる評価の問題にも触れられ、教え込むことに注力すれば、簡単に評価に結びつけられることが原因で、現場ではなかなかここから抜け出せないでいる実態等も話され、これについては、指導と評価の一体という言葉に触れた上で、評価が結果ではなく過程であると受け止めることで、そういった問題を乗り越えていけるヒントがあるのではないかと提起もなされました。そもそも、プログラミングは楽しいもので、自分で考えて自分で作っていく楽しさや、それが結果として問題解決などにもつながることを子どもたちに見せてあげられればよいのではないだろうかという話も出され、そういった教育活動の中では、先生が子どもたちとともに成長し、試行錯誤しながら一緒に活動することが大切ですね、という話で終了しました。

今回は17名の参加で、新しい視点でのお話や、教員のあり方の本質的なお話も伺えた有意義な時間でした。今後も、さまざまな分野でご活躍の方に話題提供をいただければと考えております。今回の話題提供者である慶徳氏、またご参加頂いた方々にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。(文責:平田義隆)

